

よりよい社会をつくるために ～渋沢栄一の思いの灯～ 【高校】

- 1 主題名** 他者と共に生きる **内容項目** C 社会参画、公共の精神
- 2 ねらい** 渋沢栄一の理念を現代社会と結びつけながら考える活動を通して、社会参画や公共の精神に対する自らの役割や責任について考え、将来の自身の人生に生かそうとし続ける実践意欲を育む。

3 展開例

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導 入	1 成人になる(なった)ことについて、変化することについて考える。 「成人になって変わる(変わった)ことはありますか?」	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に発言できる雰囲気をつくる。 ・生徒の意見を分類する。(特に社会参画・公共の精神に関わる内容を引き出す。) ・授業後半に振り返りができるようにまとめる。
展 開	2 教材「よりよい社会をつくるために」を聞き、話し合う。 (1)栄一の人生のターニングポイントはいつだろうか。また、その時々で彼はどのようなことを思っただろうか。 (2)栄一はどのような人物だと感じたか。また、栄一はどのような社会を目指していたか。 3 自身の将来について、よりよい社会を築くための自らの役割や責任について考える。 (1)社会とどうつながるのか。 (2)社会をよりよくするために自分は何ができるのか。 (3)そのために、自分はどのように行動したらよいのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄一の人生の転機における選択の理由を考慮することで、彼の揺れ動く心情や葛藤に気付かせる。 ・栄一の迷いや葛藤が、のちの栄一の人生を切り拓く要因や社会参画への考え方の基盤ともなったことについて気付かせる。 ・社会とつながるために大切なこと、他者と共に生きることの大切さに気付かせる。 ・自身ができる身近な行動について、より具体的に考えさせる。 ・栄一の人生を参考に、社会参画や公共の精神への意識を高めるためにどう行動するか、そこからどのような経験を積んでいくべきかについて考えさせる。
終 末	4 本時の学びを通して、振り返る。 ・資料をもとに考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が社会参画や公共の精神について考え続ける姿勢を自ら示すとともに、渋沢栄一に関する書籍や新聞記事等の資料を活用することも考えられる。

4 教材作成の意図と取扱いの留意点

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による経済不安や地球温暖化による環境問題など、現代社会を取り巻く現状は厳しさを増している。そんな中、とすれば人々は利潤を追い求めがちである。しかし、社会全体がよりよく発展するためには他者と共に生きることや社会参画の意識、公共の精神をもつことが大切である。そこで明治時代に自ら実践し、その大切さを説いた埼玉の偉人・渋沢栄一の理念について、生徒に自らと結びつけさせながら考えさせたい。その際、渋沢が様々な経験や葛藤の中からそれらの考え方を導き出したことや、成年年齢18歳引下げにも留意して、生徒が自分事として考えられるよう、発問や指導方法を工夫したい。